

指導と評価の計画

学校名	〇〇〇〇高等学校	授業者	〇〇 〇〇
教科・科目	地歴公民科・歴史総合	使用教科書等	わたしたちの歴史(山川出版社)
学年	第2学年	クラス(人数)	〇組(〇人)
内容のまとめり	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち		
単元名	戦後の世界と日本の独立		

【生徒観】

- ・歴史的諸事象にかかわる資料や年表から様々な情報を適切かつ効果的に調べる力を少しずつ身に付けている。
- ・歴史の授業に対して、知識の暗記に終始する傾向があり、時間の流れや比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を構想したりする力を身に付けさせることが課題であると思われる。

【教材観】

- ・政治、外交、経済、思想や文化などの様々な面で国際的な結びつきが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解できるようにする。
- ・近代化に伴い生活や社会が変化したことを示す資料から、情報を読み取ったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることで、歴史についての事象への問いを表現する中で、学習内容に対する生徒の課題意識を育むことを目指す。

【指導観】

- ・歴史に関わる諸事象については、地理的条件と関連付けて扱うとともに、時間的・空間的な比較や関連付けなどによりとらえられるように指導を工夫する。
- ・現代的な諸課題について考える際には、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・文化、対立・協調などの観点をもとにして考えることができるようにする。

本指導計画では、大項目Bを単元とし、以下の小単元を設定し、指導計画を構成している。

- 大項目B 国際秩序の変化や大衆化への問い……………単元3
- 中項目(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い……………小単元1
- 中項目(2) 第一次世界大戦と大衆社会……………小単元2・3
- 中項目(3) 経済危機と第二次世界大戦……………小単元4
- 中項目(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題…小単元5(本単元)

1 単元の目標

- ・国際秩序の変化や大衆化に関する諸事象について、世界とそこの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・国際秩序の変化や大衆化に関する諸事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- ・国際秩序の変化や大衆化に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。 第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際秩序の変化や大衆化について考察し、問いを表現している。 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。

3 単元における指導と評価の計画					
(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)					
	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い	小単元1(1時間)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 小単元の問い 資料から追究したいことを問いの形にして表現しよう。 </div>			<ul style="list-style-type: none"> ●資料から情報を適切に読み取っている。 ●大項目全体の学習の見通しをもって、国際秩序の変化や大衆化について考察し、問いを表現している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●国際秩序の変化や大衆化に関する資料について読み取る。 ●国際秩序の変化や大衆化について、追究したいことを見出し、単元を貫く問いとして設定する。 	●	●		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 単元を貫く問い 国際秩序の変化と大衆化は、私たちの『当たり前』をどう作ってきたのか。 </div>			

<p>(2) 第一次世界大戦</p>	<p>小単元2 (4時間)</p>	<p>小単元の問い 第一次世界大戦は日本や世界にどのような影響をあたえたのか。</p> <p>第1次 大衆運動の芽生え 問い「日露戦争後、日本の政治や外交は、どのように変化したのか。」</p> <p>第2次 第一次世界大戦 問い「なぜ第一次世界大戦は、世界各地に広がる戦争となったのか。」</p> <p>第3次 第一次世界大戦と日本 問い「第一次世界大戦は、日本にどのような影響を与えたのか。」</p> <p>第4次 ロシア革命とその影響 問い「ロシアに世界初の社会主義政権が誕生したのはなぜか。」</p> <p>小単元のまとめ ・小単元の問いについて、学習を踏まえ、資料を活用して考察する。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●資料から、日本の東アジア進出に対する列強の反応について考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第一次世界大戦の推移に着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較、関連付け、第一次世界大戦の性格と惨禍などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●日本の参戦の背景と影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較、関連付け、日本とアジア及び太平洋地域の関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目し、国の動向を比較、関連付け、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 ○小単元の問いについて、第一次世界大戦の展開などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
<p>(3) 新たな国際秩序と社会運動</p>	<p>小単元3 (5時間)</p>	<p>小単元の問い 第一次世界大戦後、社会や人々の生活はどのように変化したのだろうか。</p> <p>第1次 社会運動の広がり 問い「第一次世界大戦後、日本の社会はどのように変化したのか。」</p> <p>第2次 国際協調 問い「第一次世界大戦後、新たな国際秩序が形成されたのはなぜか。」</p> <p>第3次 アジアの民族運動 問い「第一次世界大戦後、アジアではどのような変化があったのか。」</p> <p>第4次 大量生産・大量消費社会 問い「大衆文化は、どのように形成されていったのか。」</p> <p>小単元のまとめ ・小単元の問いについて、学習を踏まえ、資料を活用して考察する。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第一次世界大戦前後の社会の変化に着目し、日本とその他の国や地域の動向を比較、関連付け、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響に着目して、国や地域の動向を比較、関連付け、国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響に着目して、国や地域の動向を比較、関連付け、日本とアジア及び太平洋地域の関係を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第一次世界大戦前後の社会の変化に着目し、第一次世界大戦後の社会の変容と大衆文化の形成との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 ○小単元の問いについて、社会運動の広がりや大衆文化などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p>

<p>(4) 第一次世界大戦</p>	<p>小単元 4 (6時間)</p>	<p>小単元の問い なぜ、2度目の世界大戦が起きてしまったのだろうか。</p> <p>第1次 世界恐慌 問い「世界恐慌に対して、各国はどのような政策で対応したのか。」</p> <p>第2次 独裁勢力の台頭 問い「なぜ、ヨーロッパでファシズムが支持されるようになったのか。」</p> <p>第3次 日本のアジア進出 問い「なぜ、日本は中国大陸に進出したのだろうか。」</p> <p>第4次 第二次世界大戦 問い「第二次世界大戦は、どのようにして世界規模の戦争となったのか。」</p> <p>第5次 第二次世界大戦と日本 問い「第二次世界大戦は、アジアではどのように進展したのだろうか。」</p> <p>第6次 第二次世界大戦の終結 問い「第二次世界大戦は、どのような問題を世界に残したのだろうか。」</p> <p>小単元のまとめ ・小単元の問いについて、学習を踏まえ、資料を活用して考察する。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●経済危機の背景と影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較、関連付け、各国の世界恐慌への対応の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●国際秩序や政治体制の変化などに着目して、欧州諸国の動向を比較、関連付け、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●国際秩序や政治体制の変化などに着目して、日本とアジア地域の動向を比較、関連付け、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第二次世界大戦の推移と社会に及ぼした影響などに着目し、主題を設定し、国や地域の動向を比較、関連付け、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第二次世界大戦の推移に着目して、主題を設定し、日本とアジア地域の動向を比較、関連付け、第二次世界大戦の進展と日本との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較、関連付け、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○世界恐慌やファシズムの伸張、第二次世界大戦の展開などを基に、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活を理解している。 ○小単元の問いについて、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活に着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
<p>(5) 戦後の世界と日本の独立</p>	<p>小単元 5 (6時間)</p>	<p>小単元の問い 戦後の世界の中で、日本はどのような国を目指したのだろうか。</p> <p>第1次 戦後国際秩序 問い「第二次世界大戦後、どのような国際秩序がつけられたのだろうか。」</p> <p>第2次 冷戦の始まり 問い「なぜ、資本主義国と社会主義国の対立が生じたのだろうか。」</p> <p>第3次 日本の戦後改革と日本国憲法 問い「占領下の日本では、どのような国を目指したのだろうか。」</p> <p>第4次 日本の独立 問い「独立を回復した日本では、どのような課題が残されたのか。」</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p>	<p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目し、世界各国の動向を比較、関連付け、戦後の社会状況や国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目し、世界各国の動向を比較、関連付け、冷戦期の国際情勢などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目し、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取っている。 ●第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目し、独立を回復した日本と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>

	小単元のまとめ ・小単元の問いについて、学習を踏まえ、資料を活用して考察する。	○	○	○国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 ○小単元の問いについて、国際連合や冷戦、日本の独立の回復などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 単元を貫く問い 国際秩序の変化と大衆化は、私たちの『当たり前』をどう作ってきたのか。 </div>				
	単元のまとめ(本時) ・単元を貫く問いについて振り返り、新たに加わった視点や獲得した知識や概念を活用し、資料を活用して考察する。	○	○	○事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、単元を貫く問いについて現代的な諸課題に関連付けて考察し、表現している。 ○単元を貫く問いについて、獲得した知識や概念等を活用し、よりよい社会の実現を視野に、表現した問いについて考察することを通して、学習を振り返り、以後の学習へのつながりを見出そうとしている。

4 小単元の目標

国際連合と国際経済体制、冷戦の始まり、アジア諸国の動向、戦後改革、日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、戦後の国際秩序の形成が社会に与えた影響に着目して、主題を設定し、日本と他国・地域の動向を比較し、相互に関連付けながら、戦後の世界の変化を多面的・多角的に考察し、表現することを通して、戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰について理解する。

5 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 ・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。	・第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本と他国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現している。	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。

6 小単元の指導と評価の計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

		学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
第1次	第1時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 小単元の問い 戦後の世界の中で、日本はどのような国を目指したのだろうか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【ねらい】 国際連合の役割や国際経済体制について理解し、第二次世界大戦後にどのような世界を目指したのか、大戦前の世界と比較して考察する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 問い 第二次世界大戦後、どのような国際秩序がつけられたのだろうか。 </div> ・小単元の問いについて、これまでの学習を踏まえ、問いに対する仮説を立てることで、学習に対する見通しをもつ。 ・第二次世界大戦後、再び世界大戦がおきないように国際連合が発足したり、分割統治が行われたりしたことを理解する。	●	●		●資料から、国際連合の発足した経緯やその役割について理解している。 ●第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目し、世界各国の動向を比較、関連付け、戦後の社会状況や国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。

第2次	第2時	<p>【ねらい】戦後の資本主義と社会主義の対立構造を理解し、冷戦がどのように世界各国に広がっていったのか、2つの陣営の立場を比較して考察する。</p> <p>【問い】 なぜ、資本主義国と社会主義国の対立が生じたのだろうか。</p>	●			<p>●資料から、第二次世界大戦後の冷戦の構造について理解している。</p> <p>●第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目し、世界各国の動向を比較、関連付け、戦後の社会状況や国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
第3次	第3時	<p>【ねらい】連合国の占領下の日本で行われた政策について理解し、戦後改革によって戦前の日本からどのように変化したのか、比較して考察させる。</p> <p>【問い】 占領下の日本では、どのような国を目指したのだろうか。</p>	●			<p>●資料から、連合国によって行われた戦後改革について理解している。</p> <p>●第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目し、世界各国の動向を比較、関連付け、戦後の社会状況や国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
第4次	第4時	<p>【ねらい】日本の国際社会への復帰について理解し、独立後の日本について考察し表現する。</p> <p>【問い】 独立を回復した日本では、どのような課題が残されたのだろうか。</p>	●			<p>●資料から日本が独立を回復するまでにどのような国際関係を構築したか理解している。</p> <p>●第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目し、世界各国の動向を比較、関連付け、戦後の社会状況や国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
第5次	第5時(本時)	<p>単元を貫く問いのまとめ</p> <p>【単元を貫く問い】 国際社会の変化と大衆化は、私たちの『当たり前』をどう作ってきたのか。</p>	○			<p>○事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本と他国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>

7 本時の展開(1時間分)			
本時の目標		国際社会の変化や大衆化の進展が、現代的な諸課題の形成にどのように影響しているかを、諸資料をもとに考察し、課題解決に向けた多角的な視点を養う。	
過程	分	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価の観点
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの授業と単元を貫く問いについて確認する。 ・本時の問いの確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの学習内容を確認できるようにする。 ・単元を貫く問いに対する自分の考えや立場を確認し、本時の学習活動を理解できるようにする。 ・『当たり前』は歴史的・社会的に作られたものであることを理解する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>【本時の問い】国際社会の変化と大衆化は、私たちの『当たり前』をどう作ってきたのか。</p> </div>			
展開1	25分	<p>SQ1: 私たちの『当たり前』は何をもとにつくられてきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 ・自分の『当たり前』は国際秩序の変化や大衆化の影響をどのように受けたのか考える。 ・思考ツールを活用し、『当たり前』をつくってきた要因について重要度をもとに考察する。 ・ワークシートに記入後、交流する。 ・交流後、自分の考えをもう一度検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人物、出来事(歴史的事象)、文化の3つの視点を分けることで、比較・関連付けながら考察できるようにする。【思】 ・思考ツールを活用することで、『当たり前』をつくってきた要因について、根拠を示しながら説明できるようにする。 ・交流時に見届けをもとにしたグループを編成することで、共通点や相違点に生徒がより気付くことができるようにする。 ・意見交流するポイントを位置づけることで、対話的活動を充実できるようにする。
展開2	15分	<p>SQ2: 私たちの『当たり前』がこれから持続していくためには何が必要だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 ・自分の考える『当たり前』がこの先の未来でも持続していくためには何が必要か考える。 ・ワークシートに記入後、交流する。 ・交流後、自分の考えをもう一度検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展開1の活動を踏まえて考えることで、歴史的事象を根拠に示して説明できるようにする。【思】 ・推移や継続、変化の視点をもとに、自分の意見を表現することができる。 ・意見交流するポイントを位置づけることで、対話的活動を充実できるようにする。
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 ・単元を貫く問いに対する答えを記入する。 ・単元を通しての学習の振り返りも行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習活動を通して、習得した知識や考えを活用しながら、単元を貫く問いに対する自分の考えを表現する。【思】 ・単元を通しての振り返りを行うことで、これからさらに追究していきたいことを明らかにできるようにする。【主】

8 「指導と評価の一体化」を踏まえた学習評価の改善について

【生徒が考察し、表現したものの評価方法の検討】

(1)本時における「主体的に学習に取り組む態度」(評定に用いる評価)の評価について

第5次の問い(単元を貫く問い)

国際秩序の変化と大衆化は、私たちの『当たり前』をどう作ってきたのか。

第5次(第5時)の授業では、国際社会の変化と大衆化の進展の中で、私たちの『当たり前』はどのような歴史的事象の影響を受けてつくられてきたのかを考える問いを設定した。

出来事、人物、文化(社会の変化)という3つの視点をもとに、私たちの『当たり前』をつくってきたのは何かを考察した。重要度を位置づけながら考えることで、根拠を明確にして説明できるようにした。

【授業プリントより】

	出来事	人物	文化(社会の変化)
①			
②			
③			

↑
重要度

個人で追究した後に、グループ内で意見交流を行った。その中で、新しい気付きや深まったことを踏まえて単元を貫く問い(本時の問い)に対する最終的な自分の答え(考え)を記述した。

「おおむね満足できる」状況(B)

単元を貫く問いについて、獲得した知識や概念等を活用し、よりよい社会の実現を視野に、表現した問いについて考察することを通して、学習を振り返り、以後の学習へのつながりを見出そうとしている。

生徒による記述の例①

第二次世界大戦が起き、どの国もたくさんの犠牲を出したことにより、国際的に平和の考えが広がっていったから今があると思う。戦後改革で選挙制度や労働、教育が大きく変化し、それらがあったからこそ私たちの当たり前になったのだと思った。

生徒による記述の例②

過去の他国との争いを通して、今でもつながっている国もあれば、関係が悪くなった国もある。日本国憲法など、様々な決まりがつくられ、人の権利を守ったり、考えをお互いに尊重したりするようになった。戦争が二度と起こらないような国をつくるために、今の当たり前をこれからも大切にしていけるべき。

生徒による記述の例③

第二次世界大戦で他国と対立することで、『当たり前』が壊されることを学び、国際的に協調することを決めて、自分たちの『当たり前』が築くことができる基盤として日本国憲法が制定されたと思う。平和主義では、他国ともう戦争はしないように決めているので、日本は協調を大切にこれからも『当たり前』を守っていくと思います。

生徒の記述例①は、第二次世界大戦が世界に与えた影響をもとに考えを展開し、その影響を受けて行われた戦後改革が私たちの生活(当たり前)に大きくかかわっていると記述している。戦後改革がその後の生活に与えた影響について言及しているため、「おおむね満足できる」状況(B)であると考え。

生徒の記述例②は、日本国憲法の制定されたことの影響をもとに考えを展開し、新たに制定された憲法が国民の生活に変化をもたらし、今の当たり前をつくったと記述している。日本国憲法がその後の社会に与えた影響について言及しているため、「おおむね満足できる」状況(B)であると考え。

生徒の記述例③は、第二次世界大戦によって生まれた諸課題、その後の国際秩序の変化、そして日本国憲法についての考えを展開している。日本国憲法がその後の社会に与えた影響について言及し、さらにその後の社会の展開についても自分の考えを主張しているため、「十分満足できる」状況(A)であると考え。

(2)「学習改善につながる評価」について

「学習改善につながる評価」について、毎時間の終末に本時の学習を振り返る時間を設定した。振り返りは、小单元ごとに1枚のワークシートを作成し、単元のつながりや本時の問いと関わらせながら記述することができるようにした。

「おおむね満足できる」状況(B)

事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本と他国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現している。

生徒による記述の例①

「第二次世界大戦後、どのような国際秩序がつけられたのだろうか」という問いに対して

国際連合ができ、世界平和に向けて動くことができるようになった。敗戦国の非軍事化や民主化が進み、もう二度と戦争が起こらないような仕組みをつくろうとしていると思う。

生徒による記述の例②

「占領下の日本では、どのような国を目指したのだろうか。」という問いに対して

国民の意見を取り入れる国民主権や戦争での出来事を受けての平和主義など国がよくなるために法や権利などを整備したと思う。また、戦争を起こさないよう平和な国を目指し、対立をなくそうとしていたと思う。

生徒による記述の例③

「独立を回復した日本では、どのような課題が残されたのだろうか」という問いに対して

ソ連との話し合いができず、北方領土の領地問題の課題が残ったと思う。また、日本がアメリカ側の資本主義国側についたけど、周りの国は社会主義側の国が多く、戦争が起きる可能性があり、対立の面で課題が残ったと思う。

生徒の記述例①は第二次世界大戦の影響から世界が平和に向けた動きを進め、日本などの敗戦国では非軍事化や民主化の政策が行われたことについて記述している。歴史的な事象(第二次世界大戦)の影響に着目し、世界の動きと日本の動きを関連付けて表現しているため、「おおむね満足できる」状況(B)であると考え。

生徒の記述例②はGHQの占領下の日本が第二次世界大戦の反省を踏まえ、日本国憲法の制定や権利の保障、日本と諸

外国との関係性について記述している。戦後改革や日本国憲法の制定が日本の国家のしくみに大きな影響を与え、諸外国との関係にも変化が生まれたということについて表現しているため、「おおむね満足できる」状況(B)であると考えられる。

生徒の記述例③は独立を回復した日本に残された課題について、国交が開かれていないソ連との北方領土問題と周辺の社会主義国との関係について記述している。当時の日本の立場と地理的環境をもとに、周辺の社会主義国との戦争がおきる可能性について述べられているため、「十分満足できる」状況(A)の評価としてもよいと考えられる。

9 今後の課題

今年度は、『単元を貫く問いを軸として生徒の振り返りを促す授業実践』をテーマとして研究を行った。

本単元では、「国際秩序の変化と大衆化は、私たちの『当たり前』をどう作ってきたのか。」という単元を貫く問いをもとに、小単元や1単位授業を計画し実施した。単元を貫く問いにもとづいて、授業のMQ、SQを設定することは、生徒の単元を貫く問いに対する意識をもつことに対して有効な手立てであると考えられる。毎時間の授業で立ち返ることができるような単元を貫く問いを設定することは難しいが、生徒がより深く思考し、より適切に表現する力を高めるためには必要なことであるからこそ、今後単元指導計画を作成する際には、まず単元を貫く問いの設定に力を注ぎたいと考える。そして、来年度は地理総合や公共の授業でも単元を貫く問いをもとにした指導計画を作成していきたい。

また、振り返りのワークシートを小単元ごとに作成し、記入する活動は、学びの連続性を生み出し、単元を貫く問いとのつながりを深める手立てとして有効であったと考える。しかし、振り返りを書く段階の前に、歴史的事象や時代の特色について正しい知識をまず修得する必要がある。身に付けた知識をもとに自分の考えを表現する力がこれからの歴史学習には求められる。その力を高めることが、これからの社会に関わる力の育成につながっていく。これからも生徒の支えとなれるよう、研究に励んでいきたい。

【別紙資料① 授業プリント】

歴史総合 授業プリント		
国際秩序の変化と大衆化と私たち	教科書 p.64～111	年 月 日

○私たちの『当たり前』は何をもとにつくられてきたのか。⑱～㉔のプリントを参考に考えてみよう。

○今の自分の生活の『当たり前』は何だろう？今までの学習を振り返って考えてみよう。

【今日の「問い」】

考える際には、出来事・人物・文化の視点を分けて考えよう。(全て埋まらなくてもOKです)

なぜ、そのように考えたのかというと・・・

	出来事	人物	文化（社会の変化）
①			
②			
③			

重要度 ↑

○グループのメンバーと交流してみよう。交流して誰の考えが一番納得できただろうか⇒

交流して気づいたことは⇒青色 交流して自分の考えが変化したことは⇒赤色 でまとめよう。

○私たちの『当たり前』がこの先の未来でも持続していくためにはどんな社会（国）が必要だろうか。
自分の考えとその理由（歴史に関わって）について、下の枠の中にまとめよう。

自分の『当たり前』がこの先の未来でも持続していくためには・・・

○グループのメンバーと交流してみよう。交流して誰の考えが一番納得できただろうか⇒
 交流して気づいたことは⇒青色 交流して自分の考えが変化したことは⇒赤色 でまとめよう。

○今日までの授業を振り返って、単元を貫く問いに対する自分の答えをまとめよう。
 その際に、大切にしたい観点をふまえて考えをまとめてみよう。

<自由・制限>・<平等・格差>・<開発・保全>・<統合・分化>・<対立・協調>

【単元を貫く問い（今日の「問い」）の最終的な自分の答え（考え）】
 「国際秩序の変化と大衆化は、私たちの『当たり前』をどう作ってきたのか。」

国際秩序の変化や大衆化が進んだことについて理解することができたか。 (知識・技能)	A・B・C	【この単元の学習を通して深化したこと】
多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 (思考・判断・表現)	A・B・C	
この単元を通して、自分の考えに変化や深まりがあったか。(主体性)	A・B・C	

【別紙資料② リフレクションシート】

歴史総合 「国際秩序の変化や大衆化と私たち」

【学習の振り返り（リフレクション）シート】

2年 組 番 名前

【単元を貫く問い】

国際秩序の変化と大衆化は、私たちの『当たり前』をどう作ってきたのか。

◇reflection（リフレクション）とは、自分の考えや行動を深く省めることです。

5. 戦後の世界と日本の独立

【小単元の問い】

『戦後の世界の中で、日本はどのような国を目指したのだろうか。』

【小単元において大切にしたい観点を1つ選ぼう】

<自由・制限>・<平等・格差>・<開発・保全>・<統合・分化>・<対立・協調>

●どのような国が理想な国といえるのだろうか。自分で考えてみよう。

どのような国家なら自分の『当たり前』が実現できるのだろうか。

「第二次世界大戦後、どのような国際秩序がつくられたのだろうか。」

「なぜ、資本主義国と社会主義国の対立が生じたのだろうか。」

「占領下の日本では、どのような国を目指したのだろうか。」

「独立を回復した日本では、どのような課題が残されたのか。」

【小単元の問いへの最終的な自分の答え（考え）】

第二次世界大戦後の社会の変化について理解することができたか。(知識・技能)	A・B・C	【小単元の学習を通して深化したこと】
多面的・多角的に考察し、表現することができたか。(思考・判断・表現)	A・B・C	
小単元を通して、自分の考えに変化や深まりがあったか。(主体性)	A・B・C	